SL002 The Way of the Turtle: Creating Clinical Science from the Bottom Up
亀のごとき歩みの先に：基礎研究に基づいた「臨床科学」を創出する

講演者 University of Steven C. Hayes#
Nevada, Reno

司会者 立命館大学 武藤 崇

講演者の紹介

1977年ウエスト・ヴァージニア大学大学院臨床心理学科実験心理学（学習）専攻修了。博士（臨床心理学）。ノース・カリフォルニア大学グリーン・ボロ校心理学科准教授を経て（1977-1986年）、1986年よりネバダ大学リノ校臨床心理学科教授、現在に至る。行動/認知療法学会（The Association of Behavioral and Cognitive Therapies; ABCT）の会長などを歴任する。ヒトに関する認知・言語（臨床心理学的なものも含まれる）を行動分析的に研究し、約400の論文・著書を執筆している。

講演の内容

行動療法の伝統の中にみられる実証的な臨床心理学の成立は、そもそも「応用臨床科学は基礎的な行動原理と密接にリンクしたものである」という発想に基づいていた。しかし、その発想は、認知行動療法の台頭によって、脇に押しやられてしまい、その代わりに、その科学的な進展は症候論的モデルを依拠するようになった。もちろん、その症候論的・技術論的なアプローチも、いくつかの方向で進展をもたらした。しかし、そのアプローチが、現代においても、実証的な臨床心理学の進展を推し進めていくための適当なビークルである、ということを感じる理由はそれほど多くはない。そこで、本講演において、私が述べることは、その症候論的・技術論的なアプローチとは異なる方途を創出するための30年来の努力についてである。その方途とは、行動分析学という帰納的で、プラグマティズムに基づいた「ボトム・アップ」な方略を拡張したもの、私たちの用語では「文脈的行動科学」(contextual behavioral science), に基づいている。私は、その努力の成果を簡潔に述べたいと考えている。その成果は多岐にわたっており、当該科学の哲学（機能的文脈主義）、人間の言語・認知の核心にあるものに対する基礎的な実験的分析（関係フレーム理論）、統一された応用モデル（アクセプタンス & コミットメント・セラピー）といった中に結実している。さらに、そのような努力の成果は、以上のような哲学、実験・理論、応用モデルと、一般的な応用心理学、そして特に臨床心理学といった幅広い分野とが密接にリンクしたアウトカム研究・プロセス研究の中にも生じているのである。

主な著書・論文

- Hayes, S. C. (Ed.). (1989). *Rule-governed behavior: Cognition, contingencies, and instructional control*. New York: Plenum. (2007) Reprinted by Context Press
- Hayes, S. C., Barlow, D. H., & Nelson-Grey, R. O. (1999). *The scientist-practitioner: Research and accountability in the age of managed care* (2nd edition). New York: Allyn & Bacon.
- Hayes, S. C., Strosahl, K. & Wilson, K. G. (1999). *Acceptance and Commitment Therapy: An experiential approach to behavior change*. New York: Guilford Press.
- Hayes, S. C., Barnes-Holmes, D., & Roche, B. (2001) (Eds.), *Relational Frame Theory: A Post-Skinnerian account of human language and cognition*. New York: Plenum Press.
- Hayes, S. C., Luoma, J. B., Bond, F. W., Masuda, A., & Lillis, J. (2006). Acceptance and Commitment Therapy: Model, processes, and outcomes. *Behavior Research and Therapy*, 44, 1-25.

講演は英語で行われます。通訳・抄訳はつきません（ただし、日本語訳されたスライド資料を当日配布予定です）。

SL(2)